

全員協議会会議録

- 1 日 時 平成30年7月6日(金)
10時00分開会 11時09分閉会
- 2 場 所 役場3階第2委員会室
- 3 出席議員 大谷昭宣・桜井崇裕・北村光明・高橋政悦・佐藤幸一・原 紀夫
口田邦男・中島里司・奥秋康子・安田 薫・西山輝和
議長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員
- 6 議 件
 - (1) 議会運営委員会からの報告事項について
 - ・議会報告会と町民との意見交換会について
 - ・6月定例会の振り返りについて
 - (2) 議会活性化特別委員会からの報告事項について
 - ・議会活性化等の町民アンケート調査について
 - (3) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

加来議長：全員協議会を開会する。議会運営委員会と議会活性化特別委員会から取り組み事項について協議したいということで今日はお集まりいただいたのでよろしく願います。

議件1 議会運営委員会からの報告事項について

・議会報告会と町民との意見交換会について

加来議長：それでは早速議件に入る。議会運営委員会からの報告事項について、最初に議会報告会と町民との意見交換会について、議会運営委員会の高橋委員長より説明する。

高橋議員：まず清水地区、御影地区それぞれの記録、アンケート結果、議会運営委員会での振り返りのまとめ、質疑、意見、提言等の振り分けの資料については事前に配付しているが、質疑、意見、提言等の振り分けについては議会対応欄に記載のとおりとなっている。総務産業常任委員会で調査検討するもの、厚生文教常任委員会で調査検討するもの、議会運営委員会で調査検討するもの、議会活性化特別委員会で調査検討するもの、回答済みの5種類で振り分けたところである。本年は、「回答できない内容」とか「未回答」というものについては該当がない。各委員会に対応を振り分けた項目は今後それぞれの委員会で調査検討を行うが、最終的には11月発行の議会だよりに結果を掲載する予定になっているので各委員会でスケジュールの調整等をお願いしたい。昨年の「議会報告会と町民との意見交換会」で執行側に対応を求めていた2項目、ドローンの使用方法と防災訓練の必要性については、総務産業常任委員会でその後の対応の検証を行っていただきたいということで、議会運営委員会のほうでまとめている。「議会報告会と町民との意見交換会開催要領」の中で終了後に全議員で反省総括を行うことになっているので、配付している議会運営委員会での振り返り等を参考に反省総括を行っていただきたい。

加来議長：委員長から報告があったが順次協議していきたい。最初に振り返り事項ということで、1から12項目まで議会運営委員会で協議した結果が出ている。1から12項目全体について何かあれば意見等を受ける。目を通して気づいた点があればお受けする。

北村議員：「議会報告会と町民との意見交換会」は5回目を開いている。今回の報告会に参加した人の意見を聞いたが、報告会より意見交換会が中心になっているのではないかと。あまり報告会としての意味をなさなくなっているのではないかと。今の報告会のあり方でいいのかどうか考える必要があるのではないかと。このような内容ならやらなくていいのではないかとというような話を聞いた。私自身も例えば本会議の中で執行側からの提案があったときに、こういった賛成意見、反対意見があったというような報告はやはりするべきではないかと感じている。

加来議長：ただいまの意見について議会運営委員会で協議はされていないと思うが高橋委員長はどうか。

高橋議員：議会運営委員会の反省総括の中で、過去の経緯を踏まえてこういうかたちになった。要するに、前の意見交換会のときに報告の部分は特筆するところだけで結構だという意見もあったためになるべく報告に時間を取るのではなくて意見交換に重きを置くというかたちになってきたという経過があるので、そのことについても反省総括の中ではそれでよかったのではないかとという意見にまとまっていた。

加来議長：ほかに今の件について何かあるか。

原議員：今の件については、私は昨年片方の会場で報告したが、あまり簡単にやるとそれはそれで意見が出るし、わかりやすいように言うと長すぎると言われるし、受けたほうの受け止め方によって相当開きがある。非常に難しい問題だろうと考えている。議会でも相当もめてこういう結論になったとかそういう事案があればある程度詳しく説明する必要があると思うが広報紙を通して説明をしていることもある。意見を受けた際に、今高橋議員が言われたことを含めて、それぞれの議員が過去の経緯があつてこうなっているの理解してほしいという説明をすれば納得してもらえないのではないかと私は思っている。

加来議長：ほかにないか。議員活動を理解してもらうという目的で報告会と意見交換会をやっている。その中で最初に1年間の報告をし、質疑も受けている。最近は議会活動に対する質疑が少なくなって行政に対する意見等が多くなってきているので、そちらのほうに重きを置くようになってきているという流れで今に至っていると思う。北村議員よろしいか。

北村議員：わかった。

加来議長：ほかに何かあれば受ける。

原議員：役割分担の関係。私と桜井議員が司会と答弁を担当した。やることが広範囲で一人二役的にやるとやるほうも大変だし、町民からは「一人で喋ってばかりいる」と現実に思われている。司会が喋りすぎなんて、私は最大限に努力してなんとかしようと思っているのにそう書かれると全く苦勞の甲斐がないと思ったので、来年以降はどうなるかはわからないが、役割分担についてはあまり範囲を広げないで一人一役的なことにしていただいたほうが進める側も含めて良いのではないかと思う。

加来議長：ただ今の意見に対して、高橋委員長何かあれば。

高橋議員：そのとおり。次年度は町議会議員改選の後だが、そういう検討をした履歴を次の議員さんたちに渡せるようなまとめ方をしていきたい。

加来議長：今回は議会運営委員会でも協議したとおり、意見交換会のテーマが「議員定数と報酬」ということで、どうしても特別委員会の委員長、副委員長に割り当てたということもある。今後もそういうところに配慮しながら取り組んでいきたい。議会運営委員会の中では班編成、役割分担については特に問題はなかったという意見だった。原議員の言うことは受け止めていきたいと思う。ほかに何かあるか。意見交換会の振り返りについてはこの程度でよいか。

(よいという声あり)

加来議長：この件についてはこれで終了する。次に、意見交換会の中で町民から提言等をいただいたので、その振り分けについて議会運営委員会で協議した。その中で配付した資料のような内容で各委員会に振り分けて協議していただくということで進めていきたいが、何かあればお受けする。今回はテーマが報酬、定数ということで特別委員会への質疑がどうしても多くなったが、委員会についても何点かある。このように進めるということによいか。

(よいという声あり)

加来議長：それでは、質疑、意見・提言については、この割り振りのとおり各委員会で今後進めるということとでよろしく願います。

・ 6月定例会の振り返りについて。

加来議長：6月定例会の振り返りについてということで、議会運営委員会で定例会の振り返りを協議したこともあるので、高橋委員長から説明をお願いします。

高橋議員：6月の定例会の運営について、質疑での項目数発言の有無、一般質問における傍聴者からの感想も届いているので、議会運営委員会として振り返りを行った。質疑については初回質疑から一問一答方式と決まっておき、最初に何点の質疑があるのか発言してから質疑を行うというルールを決めたところだが、質疑が1点しかない場合何点と最初に言わないのがほとんどであった。また、それが一問一答になっていないケースもあった。今後質疑を行う場合は箇条書きのイメージで、自分の中に3行あったら3つでそれぞれで質疑していく。そんなイメージを皆さんに持ってもらいたいということ。要するに、初めに3点の質疑とか2点の質疑があると発言してもらって、その後一問一答で質疑するように徹底していただきたいということが議会運営委員会で再度議題にのぼってそういうまとめになったのでよろしく願いたい。一般質問については答弁書を配付しているがあくまでも資料であることを確認している。この辺については皆さん確認済みだとは思いますが、質問・答弁ともに口頭で発言しなければならない。要するに通告書に記載されていない部分がポイントになっていたり通告書を無視して質問をすとかというパターンで、傍聴者から賛否両論がある意見が寄せられた。ルールとして答弁書というのは通告書に基づいて作られているものなので、初回質問で通告書に記載のない質問をしても基本的に答えは返ってこないということである。傍聴者にとっては通告の範囲を超えた質問だと思われることもあるし、一般質問の通告書には質問する内容を具体的にきちんと記載して初回質問ではその通告書に基づいて口頭で質問していただく。今回の6月の一般質問を見て、そういうイメージを持たれた傍聴者の方々も多かったと聞いている。一般質問については通告書を基に口頭でその内容に準じて質問をしていただきたいということで、議会運営委員会では反省点としてまとめたところ。

加来議長：一般的議件に対する質疑のあり方、一般質問に対する議会のあり方の2点について説明があったが、何かあればお受けする。

(なしの声あり)

加来議長：今後この点について留意しながら議会の運営をしていきたいと思うのでよろしく願います。

議件2 議会活性化特別委員会からの報告事項について

・議会活性化等の町民アンケート調査について

加来議長：議件2、議会活性化特別委員会からの報告事項について原委員長から説明をお願いします。

原議員：ご存知のとおり議会活性化特別委員会は大変忙しい。日程的にもきつい中で委員の皆さんに鋭意努力をしていただいているところ。5月の29日・30日の「議会報告会と町民との意見交換会」では議員報酬の引き上げについて清水地区においては反対、賛同の意見があった。御影においては賛同する意見があった。また、議員報酬を上げるのであれば議員定数を減らすべきだという意見もあった。「議会報告会と町民との意見交換会」でアンケートを求めたが、集計結果では議員定数が現在のままでいいというのが約6割、現在より減らすというのが約3割という状況。議員報酬は現在のままでいいというのが約4割。試算の額より上げるべきだというのが約3割ある。試算の額そのものでいいというのが約2割あった。この結果を受けて、議会報告会のアンケートが多く町の民から集計されているものであればいいが、あまり多い数ではないのでこれが全町の民の意見ということには全くならないということから、更に議会活性化特別委員会では今後どうするか協議をした。うちの議会に予算があれば全戸数のアンケートをやったらどうかという意見もあったが予算がないので、皆さんには大変ご足労だが全議員による町民へのアンケートをやってはどうかということでもとまった。封書に入れて配っているが、このようなかたちでやりたい。予算があればすぐ全町民にやりたいところだがなかなかそうはいかないということで、町民と接してアンケートをお願いする際に身近な立場でいろいろな意見を聞くこともできるだろうし、そういう中で努力をお願いしたい。以下町民アンケートの実施方法等について説明をする。先ほど予算がないと強調したが、そのために議長を含めた全議員による配付、回収等を行いたい。その際に、過去に案として配っている議員定数及び議員報酬の調査検討の資料について理解をしていただき、町民から説明を求められた際にはその旨取り計らいをお願いしたい。この中に年代等の表記があるが、当然幅広く意見を集めたいということから、議会として清水高校へ向いて清水中学校を卒業している高校生へのアンケートもという話もあったが、清水高校に限らず清水町から通学している生徒が家庭の中にとすればその方にも10代の意見として聴取をお願いしたいと特に力を入れて考えている。議員定数と報酬に限らず、議会への関心だとか運営についていろいろと言いたいことがある町民もいると思うので、そういう意見が出た際にはそれらのことについても聴取をしていただきたいと考えている。議員がどれぐらいの枚数を配付して回収するかというと、当初はより多くということで100枚や200枚集めなくてはいけないのではないかと意見もあったが、最終的に30部をお渡しする。最低30部ということではない。上限下限なしで一応30部をお渡しするので、努力をお願いしたい。足りない際には事務局に申し出て用意をするので、より多くの意見を求めたいと考えているのでよろしく願います。回収の際には封筒に入れてあるのでのり付けをして渡していただく。そのことによっていろいろな意見等々もより多く集まるのではないかと考えている。早い段階で方向性を決めたいので、期限は7月25日（水）を目処に回収をお願いしたい。数字を表しているので、お渡しをする際に上げるつもりで出しているのだからということを使う町民もおられると思うが、そうではなくてより多くの町民の意見を聞くためにやっているのだから、回収した結果上げるか上げないかは全くわからないということだけは徹底してほしい。議会としては特別職報酬等審議会の意見を聞いた中で決めようと考えているので町にも事務局のほうから働きかけをしてもらい、日程等についていろいろと話をし調整をした結果、先ほどの議会活性化特別委員会ですべての意見を聴取した中で最終的に回収期限は7月25日と決めた。以上。

加来議長：原委員長から定数・報酬に対する町民へのアンケートに取り組むという議会活性化特別委員会の方向について説明があったが、まず議員全員の協力を得る中でアンケート調査を実施したいということに対して何かあればお受けする。

中島議員：意見交換会での比率も今お話いただいた。どういう数字が出てくるか全く予想はつかないが、そのアンケート結果を踏まえて説明責任を果たせるような集計ができるという理解の下にこのアンケート調査を実施するのか。

原議員：当然町民のアンケートがどういう記載をされるかわからない。結果的に集計した結果上げること

は相成らないという意見が出るかもしれないし、全く逆に上げていいという意見が出るかも知れない。議会が上げなくていいということになれば、町としては特別職報酬等審議会を開いてどうしたらいいかということにはならないような気もする。報酬を大幅に上げなくてはならないということになれば当然のことながら特別職報酬等審議会の意見も聞かなくてはならないという立場なので、アンケート結果は当然説明責任を果たせるものだと理解している。

中島議員：町民への説明がアンケート結果の報告だけで終わるわけではないと思っている。議会の活性化にアンケート調査をどのように生かしていくのかということを知っている。任期はわずかだが次に繋がるような結果、数字が出てきた場合にそれをちゃんと説明する。全て同じ答えは出てこないだろうと思っている。報酬についても上げるべき、上げる必要はない、このままでいい、下げるべきという人も出てくるかもしれない。報酬だけで見れば単純に3点が考えられる。上げるべきだ、このままでいい、下げるべきだ。アンケート結果で数値的なものが出てきた場合に、上げるべきだ下げるべきだと言っている人に対して今のままでいい場合でも説明を果たさなくては行けない。ただ「アンケート調査でこうだったからこうですよ」ではアンケートを書いた人の責任になってしまう。議員としては、アンケート調査を拾った結果十分協議してこういう方針を出したということをやらなければ意味がないと思う。説明責任というのはそれらも含めて、一定の覚悟というのは大げさかもしれないが、委員会でそういう強い気持ちを持っておられるのアンケート調査なのかということを知りたい。

原議員：アンケート調査を行うことへの強い気持ちということを知っているが、どの議員もやはり町民にアンケートを求める際にいろいろな意見が出るだろうということも想像している。意見を言わない人についてはアンケートの最後の表記のところにいろいろな厳しい意見を書かれる人もいると考えられるので、それらを最終的に特別委員会が受けて集計をした結果、それぞれの意見をどうするか協議する。覚悟については特別委員会ですら大々的にウエイトは置いていないが、町民の生の意見を聞く、その結果どうするかを方向付けるという範囲で留めている。今後特別委員会の中でも今中島議員が言われたことについてはアンケート結果を踏まえて話し合いをしたと考えている。

中島議員：実際にアンケート調査を依頼するのだからそれも踏まえて結果をいろいろな方に説明する必要がある。100%理解を求めることは難しいと思っている。だが、一定の方に説明できるような方向性を示していただきたい。それに多少関わるが、議員定数については既に現状の13人のままという答えが出ている。13人というのは町の現状から言う必要だろう。根拠は何かということとただ単に必要ということではなくて、委員会の構成を考えたときには13人が妥当だろうと議員になってからずっとそういう思いをしている。18人から減ってきたという歴史的なものもある程度資料として用意しなければ、ただ漠然と「13人ですが何人が必要ですか」のアンケート調査を見たら好きか嫌いかで答えを書いてしまう。13人になった歴史的背景は、私の記憶では人口減と財政危機であったと思う。そういう状況も踏まえた上で判断ができるかできないかということで、私はアンケートを持っていくときにはそういう歴史的なものも若干説明しようと思っている。ただ漠然と13人に決めたわけではない。現状で議員が何人必要なのだという考えるネタを与えないでただ漠然と13人云々では町民の判断ができるかできないか。説明責任をどう果たすかというのはそういう歴史的なものもあると思う。その辺についても議会活性化特別委員会で話が出なかったのかお聞きしたい。

原議員：報酬については高いか安いかということも含めて相当話し合いをした。当初は今の倍ぐらい出さないと若い人は出ないという意見もあったし、6人の委員からいろいろな意見が出たことは確か。長崎県のある自治体でやっていたように50歳以下には多く積んだからといって議員に立候補するということも見られないということもあった。そういうことについても特別委員会の中では議論もしたし、それを踏まえて最終的に清水町議会議員の過去2年間の活動状況を集計して、203,000円の数字を出した。なかなかそこまで考えが及ばないということが現実問題ではないかということがあって、アンケート調査を行っている町村がけっこうあるのでそれをいろいろと調べた中で清水なりにA4版2枚にまとめてなんとか理解をしてもらえるのではないかとということで提示したので理解をしていただきたい。

中島議員：アンケート調査がいいとか悪いとかという答えを出すために質問をしているわけではない。今お話ししたのはほかの町云々とかではなくて、なぜ今この議員定数13人になってきたのかという歴史をしっかりと議員も把握しているのではないかとことを申し上げている。13人になった流れが分かれば、町民が判断する知識を提供できるのではないかと。私が言っているのはそういうこと。

そんなに難しいことではないと思うので、うちの町の議会としての流れというものを議会活性化特別委員会で示してもらえば町民に聞けるのではないかと。せつかくここまで来ているから新たに書き入れてほしいとは言わないが何かもう一つ資料提供があってもいいのではないかと。

原議員：今中島議員が言われるのは全くそのとおりだと思う。意見交換会の際にも報酬や定数についての過去を一部お話したこともあるので、ほとんどの議員はそのことについてはある程度周知のことと理解しているが、それではなかなか町民には説得力がないということであればまだ噛み砕いて過去の経緯を含めて間に合うように資料を事務局に作ってもらうことも可能かと考えている。皆さんにお尋ねするが、今中島議員が言われたことについて、必要だと思う方が大半なのかどうかお聞きしたい。

奥秋議員：私もこのアンケート用紙を封書から出して眺めてみたが、これは町民の皆さんにどう判断してもらえるのか。個人的にはこれまでの財政危機から定数減の状況というのもわかっているから説明できるが、それを30人にいちいち説明をするというのもまた大変な話である。ならば、ここにもう一筆何かそういう内容を書いてもいいのかと思っていた。そういう内容が見当たらなかったもので、中島議員が言うとおりの説明も必要だと考えていたところ。

加来議長：議会報告会をやる前に、全員協議会を開催し、定員13人についてと、報酬についての試算ということで特別委員会から報告して皆さんの了承を得ている。それを前提に13人になったことも説明してある。

中島議員：今議長から助言的な意見があった。議長のお話を伺うと、議員が承知していればそれでよしと。アンケート調査に行ったときにその知識を持って説明して歩けばいいと理解をした。この紙一枚でやった場合には、読んだ方はほかの考えは持たないが、議員が個々で配付した場合には議員個々の考えが説明の中に出てくる。皆同じような説明をした上で意見を聞くべき。私と原議員が別々な町民の所へ行ってこれを見ているいろいろな説明をした際に多分違うことを言うと思う。それは可能な限り避けるべき。個人感情的に自分の考えを多少含めて言うかもしれないが、それは基本的に抑えなくてはいけない。同じ条件下でアンケートを受けるべき。議長は全員協議会で皆さんに言うてあるからもういいと。それだったらこんなアンケート調査をしないで直接聞いて来なさいで終わってしまう。そうではなくて同じ説明で、同じ条件下の中でアンケートを取りたいと思っている。

高橋議員：中島議員の言うところも一理あるかもしれないが、13人という定数は必要だということは全員協議会でも意見交換会の中でも町民の皆さんにそういう答弁はしていたと思う。それを踏まえて報酬を上げるなら議員定数を下げれという意見も何件かあったと思う。アンケートに出す上で議員の定数13名の過去の歴史なんてそこを聞いているのではない。何人にしたら報酬を上げて納得するのだというところの結果を知りたいからアンケートの中身に定数を入れたということであって、その13名が適切かどうかということ町民の皆さんに聞いているわけではない。既に13名というのは議会の中で納得した定数だと結果が出ている中で、アンケートの中では報酬をこれだけ上げるにあたって定数を何人減らしたら納得してくれるのかとか、定数はそのままでもいいから上げなさいという意見もあればということ。要するにそんなに凝り固まった内容ではなくて、出されたアンケート結果をどう分析するかというのが問題ではないかと思う。アンケートそのものをそんなにかしこまって議員の色が出てしまうとかそこまで考えなくてもいいと思う。

中島議員：報酬と定数を一緒に考えるのは基本的に違うだろう。定数は定数。定数は今常任委員会等の構成が決まっているわけだから、その中に何人必要かということ捉えた中では13人ということを変えるべきではない。定数を下げることで報酬を上げるなら上げてもらわないほうがいい。町民に対してシーソー的な、こっちを上げたらこっちを下げるということは、議会運営のあり方とは話が違う。報酬と定数は切り離して考えていかなくてはいけない。だから町民にちゃんとした説明が必要ではないかという意味合いで申し上げたつもり。

高橋議員：中島議員の言われることも分かるが、とにかくアンケートのサンプル数をなるべく多く皆さんに集めて来ていただいて、その中でここに出てきたから決まるというものではない。要するにデータが多ければ多いほどいろいろな角度から分析ができる。少しおかしな設問になっているかもしれないが、後で結果を見れば、こういう結果だからこうだという分析がそこから始まるのであって、今心配する話ではない。今心配することは、いっぱい集めなくてはいけないというくらいのもので、議員の皆さんはとにかく協力して、頑張っていたいただきたいということ。

中島議員：どちらにしても、議会活性化特別委員会で何度も協議した結果でこうまとめられたものだと思うて敬意を表しており、文章的なものを作らないで知識の中で町民に説明するというのであれば

それはそれでかまわない。ただバラつきがあるということだけはお互いに承知していればいいこと。ただ私はそれはできないかと聞いただけで、やるべきだと言ったわけではない。忙しい中恐縮だが、アンケート結果を踏まえてしっかりしたまとめを町民に示していただけるような部分で、人ごとではなくて一議員としても可能な限り理解を深めていくべきなのかと理解している。やるべきことを反対しているわけではない。ただこういうアンケートというのはただそれだけを見て根拠はどうだったのかということを知って書いてくれている人が何人いるかという心配をしているだけ。答えはいらない。今後もご苦労があると思うが頑張ってほしい。

加来議長：議員定数についてもうちよつと説明したほうがいいのかということをお先ほどから出していただいている。原委員長はどうか。

原議員：結果がどう出るかはわからないが、委員会を一つ増やして広報にも力を入れる方向にあるので、アンケートの意見等の集計結果等々を含めて委員会で最終的にいろいろと協議をして、町民にしっかりとお知らせをする。そういうまとめ方をしていきたいと考えている。いろいろと中島議員が言われるように懸念される事項が相当あるということは十分承知をしているが、特別委員会の中で町民にアンケートを求めるといったことになったので、このことについて理解をし協力をしていただきたいというのが私の考え。

加来議長：議員定数の説明についてももう少し詳しくしたほうがいいのかという意見と、共通認識を持ったほうがいいのかという意見があった。委員長としては、委員会で協議してこういうアンケートをつくったので、このままで皆さんにご理解いただきたいということだが、よろしいか。

原議員：事務局に聞きたい。日程的な問題もあるが、全員協議会が終わった段階で30部近く皆さんにアンケートを渡すことになっているが、定数の過去の流れ等について短いものをつくって封書の中に入れることを行うとすれば、1日ぐらいうずらさずなどして可能かどうか。

佐藤局長：A4版1枚で議員定数についての案と議員報酬についての案をお配りしている。例えばここに定数について過去の歴史を加えたら、そういったことは可能かと思う。

加来議長：作るとしたらどれくらい日数がかかるのか。

佐藤局長：歴史だけであればそんなにかからないでできる。

加来議長：これまでの削減してきた歴史についてはそんなに時間がかからないで対応ができるそう。

原議員：町民により理解を深めてもらうということが目的なので、今中島議員、奥秋議員が言われたことを含めて当然議員の皆さんもそうだなと思っていると思うので、追加的に努力をしてほしいと。それに対してそんなことは必要なくちゃんと自分で理解していると全議員が言ってくれるならいいけれどもそうではないと思う。

口田議員：いろいろ心配なことはいっぱいあるかもしれないが、定数についてもいろいろな場所で議論をしているからその理由というものを皆把握しているのではないかと思う。アンケートをとるにしても一枚一枚説明してから渡すわけではない。不安なところやわからないところがあったら説明すると行って渡して回収すればよいことであって、一枚一枚説明して回収するわけではない。そんなことをしたらアンケートにならないと思う。そう深く考えないでこの後の中でやっても差し支えないと思う。

加来議長：現状のままを進めたらいいのではという意見が出たが、ほかに意見があれば。

北村議員：単に定数の歴史的経過の数値を挙げるということについては事実なので問題はない。定数を減らしてきたそもその理由の中には町の財政の危機的状況があって、総額を減らすという中で議会で使っている費用を減らすということがあったから、報酬のみならず定数も削減してきたという歴史的経過。それを今言って参考にするということになるとそれを求めるということになる。少なくとも報酬を上げれば定数を下げるといった考え方はとらないのだということを通じた認識として議員は持っていると思うし、そういった説明もしていただきたい。単に財政再建的に総額を減らすという考え方を持たない、報酬を上げるなら定数を減らすという考え方はとらないということを議員のほうはきちんと共通認識を持ったほうがいいのかと思う。

加来議長：共通認識を持つほうがいいのかということで資料をどうするかという議論をしているが。

北村議員：現状のままでもいいのではないかと。あえてそれを付け加えるとまた面倒かと思ったのでそのことを言った。

中島議員：私がなぜ定数の流れというものを提案したのかということ、今北村議員が最後に言った、定数と報酬を秤にかけているようなことをちよくちよく耳にするので、定数は変えられないということをやつと説明しなければ、減らすべきだと言ったときに報酬と比較されるような考え方は個々の考

え方だから縛ることはできないが、私が懸念したのはそこ。だから定数はいじれないという部分は議員としてしっかりした考えを持って町民に説明してほしい。口田議員が言うようにアンケート調査をまとめることが大事なことから、簡単に進めばいいということではない。これはちゃんと説明しなくてはいけないと私は思っている。

口田議員：アンケートをとる前に説明する必要もないし、したら駄目だということ。聞かれて初めて、分からないから説明してくれと言われれば説明する。アンケートをとる前に説明したのではアンケートを取ることはならない。

加来議長：個々で、聞かれた上で説明するというを前提にアンケート調査をする。議員一人一人それぞれ個人の考え方は当然あると思うが、より多くの意見を聴取する中で聞かれた範囲で説明する責任があるということはある程度共通意識を持ってやったほうがいいだろうということ。報告会でも町民から定数についての質疑があったときに説明しているが、特別委員会の中でも定数について議論し、現状のままがいいとなった。常任委員会を構成する上でやはり 13 人が必要だと簡素に書いてある。そういう認識の上でアンケートに取り組んでいただく。歴史の背景については財政を考慮したこともあるが、選挙が無いごとに人数を減らしてきたという経緯もあるということ。をそれぞれ受け取っている考えの中でアンケート調査をしていくということで、このままで進めるという意見のほうが多いようだがよいか。

(よいという声あり。)

加来議長：それではアンケート調査を全議員で取り組んでいくということで進める。日程等については了承いただいたので後でアンケート用紙を 30 枚配る。何枚という強制はない。それぞれの議員ができる範囲で協力をいただくということで進めていく。7月25日を締め切りとするということで進めてよろしいか。

(よいという声あり。)

原議員：回収期限を7月25日としている。事務局と日程を調整すると、最終的には8月1日あたりに全員協議会を開いたほうがいいということと言われており、特別委員会でもそのことについて了承した。8月1日には全員協議会が行われるということについて認識をしておいていただきたい。

加来議長：原委員長から説明があったが、今後の進め方について、アンケート調査を7月25日に締め切り、その後集計、分析をして特別委員会を7月31日に開催し、その後全員協議会で結果を踏まえて協議するという日程を予定している。この日程については、もし報酬を上げるという最終判断をしたときに報酬職特別等審議会を執行側のほうで開催し審議していただくという流れになる。審議会委員を一般募集したりする手続き上8月15日のお知らせ版から取り組まなくてはならないということがあるので、短い期間ではあるがそのような中で対応するように特別委員会で取り組んでいるのでご了承いただきたい。あと皆さんから何かあればお受けする。

西山議員：回収日は7月25日だが、事務局に持ってくるのは26日でもいいのか25日にするのか。

加来議長：随時1枚でも2枚でも回収できた時点で持ってきてほしいが、7月25日を最終とする。7月26日ではなくて25日中に届けていただきたいということ。議会活性化委員会からのアンケート調査についてはこれで終わる。

議件3 その他

加来議長：事務局からその他として臨時会について報告がある。

佐藤局長：既にメールで連絡しているが、7月20日(金)に臨時会が予定されている。議案については補正予算。内容は1点目が総務省で新たに始まった「ワーキングホリデー事業」ということで、都会の若者に20日から30日間くらい地方に来ていただいて、仕事を斡旋してさらに地域の行事にも参加してもらって、関係人口を増やすという事業が今年から市町村を対象に始まった。そこに清水町として手をあげるということでその補正予算。それから、9月16日に開催が予定されている、清水町で取り組んでいる牛とろ井とか牛玉井とか豚井も含めて、肉のどんぶりのイベントを計画している。これは実行委員会方式で開催を予定している。その実行委員会経費補助の補正予算ということで、大きくこの2点の補正予算が予定されている。そのほか議案は調整中で、臨時議会の招集ということになっている。

加来議長：臨時議会が招集予定になっているので配慮をお願いする。ほかになければこれで全員協議会を終了する。